

令和6年度

第1回 恵庭市公営企業経営審議会

令和5年度 公営企業会計決算について

令和6年9月5日
恵庭市水道部経営管理課

目次

1. 令和5年度 恵庭市水道事業会計 決算の概要
2. 令和5年度 恵庭市下水道事業会計 決算の概要

令和5年度 恵庭市水道事業会計 決算の概要（ダイジェスト版）

※端数処理により合計や差額等が合わない場合がある。

事業概要・トピックス

- 決算概況**（前年度比）
収益的収支（当年度純利益）は、横ばいに近い微増となり、**黒字を確保**。資本的収支は、建設改良費の減少等により、収支不足額が減少。その結果、**現金回収率**及び**流動比率**と**ともに経営戦略で掲げる目標を達成**。
一方、**企業債残高は増加し、将来負担が増えたことに留意**が必要。
- 有収水量**の状況（前年度比）
微増。（家事用外水量(営業用水量)については、コロナ渦前の水準までは戻っていないものの増加(回復傾向続く。)）
- 建設投資**の状況
建設事業は、**昨年度に引き続き配水管の耐震化と老朽化対策を軸に実施**。
投資額(資本的支出；建設改良費)は、前年度と比べ大幅に減少。（配水管の耐震化について、“漏水が頻発していた農村地区への重点整備”が一段落着き、事業規模が縮小したため）
- その他事業
水道施設整備基本計画（配水管等更新計画）の見直し、水道事業経営戦略の見直し(R6年度も継続)を実施。
○主な受贈資産
駒場町3丁目開発行為（住宅地及び福祉施設）に係る配水管など。

財務諸表等

○**損益計算書**(R5.4.1～R6.3.31) ※消費税抜き

営業費用	13.76億円
営業外費用	0.20億円
減価償却費 資産減耗費	4.37億円
支払利息ほか	0.20億円
受託事業収益ほか	0.94億円
長期前受金戻入ほか	0.66億円
給水収益 (水道料金収益)	13.72億円
配水及び給水費、 総係費ほか	9.39億円
給水収益 (水道料金収益)	13.72億円
営業収益	14.66億円
営業外収益	0.66億円
費用	14.0億円
収益	15.3億円

※特別利益及び特別損失を加味した**当年度純利益 1.4億円**
(前年度比+0.01億円)

○**貸借対照表**(R6.3.31)

資産	101億円
負債	34億円
資本	67億円

前年度決算と比べ+1億円
固定資産：微増
(流動資産：増加)

前年度決算と比べ+0億円
固定負債：増加
流動負債：減少
繰延収益：減少

R4決算と比べ+1億円

○**損益計算書**

○**貸借対照表**

○**キャッシュフロー**：資金が**0.9億円増加**し、**残高が10.2億円**となった。

：前年度とほぼ横ばいの**当年度純利益 1.4億円**の黒字を確保(前年度比+0.01億円)。

：現金預金の増加などにより**資産及び資本が1億円増加**。

：総務省；地方公営企業法の適用に関するマニュアルより)

収益的収支の状況 (予算比・決算比・決算比・経営戦略対比)

※消費税込み。ただし、カッコ内は税抜き。

	内容	R5年度 決算	R5年度予算 に対する差額	前年度決算 に対する差額	経営戦略 に対する差額
収入	水道料金収入、 受託事業収益、長期前 受金戻入ほか	16.75億円 (15.33億円)	+0.08億円 (+0.08億円)	+0.06億円 (+0.04億円)	(△0.11億円)
支出	受水費、配水及び給水費、総係費、減 価償却費ほか	14.97億円 (13.97億円)	△0.30億円 (△0.33億円)	+0.17億円 (+0.03億円)	(△1.04億円)
収支差	—	1.77億円 (1.36億円)	+0.39億円 (+0.40億円)	△0.11億円 (+0.01億円)	(+0.93億円)

・前年度決算との比較
収入では戸機跨線橋架替事業関連の移転補償費が皆減となったものの水道料金収入の増（特に家事用外の増）などの影響で収入全体としては増額となり、支出でも水道施設等維持管理委託業務や水道料金等徴収業務委託費における労務単価の上昇等の増額により支出全体としても増額となった。収支としては前年度決算並みの収支黒字を確保できた。

資本的収支の状況 (予算比・決算比・決算比・経営戦略対比)

	内容	R5年度 決算	R5年度予算 に対する差額	前年度決算 に対する差額	経営戦略 に対する差額
収入	企業債借入、道補助金、一般会計繰入 金（出資金）ほか	1.98億円	△2.33億円	△1.12億円	△1.83億円
支出	水道施設整備費、メーター設置費、固 定資産購入費、企業債償還金ほか	6.39億円	△2.50億円	△1.56億円	△3.33億円
収支差	—	△4.42億円	+0.18億円 (不足額縮小)	+0.44億円 (不足額縮小)	+1.50億円 (不足額縮小)

※消費税込み

・前年度決算との比較
水道施設整備費のうち配水管の耐震化について“漏水が頻発していた農村地区への重点的な布設替”が一段落着いたため、事業規模が減少した。

経営指標等

	R3	R4	R5	R3	R4	R5
料金回収率	99.40%	102.07%	103.07%	流動比率	210.90%	259.59%
供給単価	218.15円/m ³	219.93円/m ³	221.12円/m ³	流動資産	1,023百万円	1,050百万円
給水原価	219.48円/m ³	215.47円/m ³	214.53円/m ³	流動負債	485百万円	405百万円
元金償還額	152百万円	158百万円	173百万円	元金償還額	173百万円	160百万円
借入額	140百万円	147百万円	179百万円	借入額	290百万円	192百万円
企業債現在高	1,702百万円	1,692百万円	1,698百万円	企業債現在高	1,815百万円	1,848百万円

・**料金回収率**：100%を上回り、給水に要する費用を料金収入で賄うことができている。単価の高い家事用外有収水量の増加などにより供給単価(水道料金収入)が増額、一方給水原価は有収水量の増加により減少している。
・**流動比率**：目標とする200%を上回り、資金繰りに係る安全性が高い状況。水道料金収入の増加及び減価償却費の計上などにより現金預金が増加する一方で元金償還金が減少したことから流動比率が上昇。
・**企業債現在高**：増加傾向。近年、漏水が頻発する農村地区での重点的な配水管布設替えにより、元金償還額を上回る借入を実施している。既発債の元金償還ピークはR3であり、今後減少傾向が続く見込み。

令和5年度 水道事業会計 決算の概要

1.有収水量の業務の状況

令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症拡大による外出機会の減少による家事用有収水量が増加、社会経済活動の落ち込みにより家事用外有収水量が減少していましたが、令和4年度以降は行動制限の緩和・解除や5類移行(令和5年5月)などにより、家事用外有収水量の回復が見られます。

○水道 有収水量（料金収入が得られた水量）

（単位：万m³/年、％）

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度 a	令和5年度 b	増減 b-a	増減率 (b-a)/a*100
家事用	470.1	472.9	494.7	490.5	481.6	480.3	△ 1.3	△ 0.3
家事用外	141.0	141.7	129.2	124.6	133.4	140.1	6.7	5.0
計	611.1	614.6	623.9	615.1	615.0	620.4	5.4	0.9

※新型コロナウイルスの影響：令和元年度末以降

2.給水工事設計審査・検定件数の推移

給水施設の新設件数は、令和元年度をピークに減少が続いています。

（単位：件、％）

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度 a	令和5年度 b	増減 b-a	増減率 (b-a)/a*100
新設	336	349	337	332	294	212	-82	-27.9
改造	31	32	23	38	23	27	4	17.4
撤去・その他	148	142	140	167	190	169	-21	-11.1
計	515	523	500	537	507	408	-99	-19.5

3.一般会計繰入金の状況

資本的収入における他会計出資金の減少(耐震化(上積み実施分))の皆減により、一般会計繰入金総額が大幅に減少しました。

○一般会計繰入金

（単位：百万円/年(税込)、％）

区分		令和4年度 a	令和5年度 b	増減 b-a	増減理由
水道事業	営業外収益 他会計負担金	1.3	1.1	△ 0.3	地方公営企業職員に係る児童手当の減
		0.5	0.0	△ 0.5	福祉助成制度廃止に伴う皆減
	資本的収入 他会計出資金	19.2	3.5	△ 15.7	緊急貯水槽に係る出資金の計上 耐震化(上積み実施分)の皆減
合計		21.0	4.6	△ 16.5	

※端数処理により合計値や増減値に相違が生じる場合があります。

4.建設投資の状況

水道施設整備費は、漏水が多かった農村地区の布設替えによる耐震化を令和2年度～令和4年度にかけて重点的に実施してきたが、一段落となったため、建設事業費が減少しました。

○建設改良費

(単位：百万円/年(税込))

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度 a	令和5年度 b	比較増減 b-a
水道施設整備費	328.9	314.8	527.3	468.6	479.5	368.8	△ 110.7
メーター設置費	114.1	105.0	108.3	108.2	105.6	109.0	3.3
固定資産購入費	13.3	4.6	1.5	41.1	37.6	2.0	△ 35.7
計	456.3	424.4	637.1	617.9	622.8	479.8	△ 143.0

※R4固定資産購入費：応急給水車、維持管理用車両(キャラバン)の購入

※R3固定資産購入費：管路台帳システムの購入

○主な建設投資(工事請負費)

(単位：百万円/年(税込))

区分		内容	令和4年度 a	令和5年度 b	比較増減 b-a
配水管	耐震化 (布設替)	・穂栄、西島松地区ほか φ 50～φ 150 2,665m	322.1	189.0	△ 133.1
	老朽化対策 (布設替)	・林田、新町・京町地区ほか φ 50～φ 200 1,393m	74.7	90.6	15.9
	新設	・戸磯跨線橋架替関連、大町地区ほか φ 50～φ 150 381m	34.5	19.0	△ 15.5
		小 計	431.3	298.6	△ 132.7
配水池	老朽化対策	・牧場配水池 無停電電源装置更新	1.2	0.8	△ 0.3
	小 計		1.2	0.8	△ 0.3
計			432.5	299.4	△ 133.1

○令和6年度への繰越事業

(単位：千円/年(税込))

事業名	事業費	財源			
		国庫補助金	企業債	出資金	内部留保資金
緊急貯水槽整備事業	182,215	45,553	68,300	68,300	62

※端数処理により合計値や増減値に相違が生じる場合があります。

5. 予算決算比較表

(収益的収入)

(単位：百万円/年(税込))

科目	令和5年度			令和4年度		備考
	予算額a	決算額b	比較増減 (b-a)	決算額c	比較増減 (b-c)	
1.営業収益	1,604.5	1,608.1	3.7	1,600.4	7.8	
(1)給水収益	1,491.6	1,509.0	17.4	1,488.3	20.7	【前年度比増】 家事用外有収水量の増加による。(コロナ渦が過ぎ経済活動が回復したものと思われる)
(2)受託事業収益	48.8	46.7	△ 2.2	45.6	1.0	
(3)その他営業収益	64.0	52.5	△ 11.5	66.4	△ 13.9	【前年度比減】 跨線橋架替関連移転補償の皆減 及び 設計審査件数の減少に伴う手数料の減による。 ≪予算比減≫ 設計審査件数の減少による手数料の減による。
2.営業外収益	61.9	66.5	4.6	68.4	△ 1.9	
(1)受取利息及び配当金	0.0	0.3	0.3	0.2	0.0	
(2)他会計負担金	2.2	1.1	△ 1.2	1.8	△ 0.8	
(3)長期前受金戻入	56.5	60.3	3.8	63.0	△ 2.7	
(4)雑収益	3.1	4.9	1.7	3.2	1.6	
3.特別利益	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
合計	1,666.4	1,674.6	8.3	1,668.7	5.9	

(収益的支出)

(単位：百万円/年(税込))

科目	令和5年度			令和4年度		備考
	予算額a	決算額b	比較増減 (b-a)	決算額c	比較増減 (b-c)	
1.営業費用	1,486.2	1,456.9	△ 29.3	1,453.6	3.2	
(1)受水費	747.7	747.7	0.0	746.3	1.4	【前年度比増】 家事用外給水量の増加(コロナ渦が過ぎ経済活動が回復したものと思われる)
(2)配水及び給水費	110.5	99.2	△ 11.3	97.6	1.5	≪予算比減≫ 修繕費用の減、委託業務入札差金の発生。
(3)受託工事費	6.8	4.7	△ 2.1	5.0	△ 0.3	
(4)総係費	179.6	167.8	△ 11.8	164.4	3.4	≪予算比減≫ 人事異動等に伴う人件費の減少による減。
(5)減価償却費	418.7	414.1	△ 4.6	404.1	10.0	【前年度比増】 R3に比べR4の建設投資の増による。
(6)資産減耗費	22.9	23.3	0.4	36.2	△ 12.9	【前年度比減】 跨線橋架替関連の移設(撤去)の皆減による。
2.営業外費用	39.7	39.4	△ 0.3	25.8	13.6	
(1)支払い利息及び企業債取扱諸費	18.7	18.7	0.0	19.9	△ 1.1	
(2)消費税及び地方消費税	19.9	19.9	0.0	5.9	14.0	【前年度比増】 建設改良費の減に伴う仮払消費税の減、給水収益の増に伴う借受消費税の増による増。
(3)雑支出	1.0	0.7	△ 0.3	0.0	0.7	
3.特別損失	1.0	1.1	0.1	0.7	0.3	
4.予備費	1.0	0.0	△ 1.0	0.0	0.0	
合計	1,527.8	1,497.3	△ 30.5	1,480.2	17.1	

※端数処理により合計値や増減値に相違が生じる場合があります。

(資本的収入)

(単位：百万円/年(税込))

科目	令和5年度			令和4年度		備考
	予算額a	決算額b	比較増減 (b-a)	決算額c	比較増減 (b-c)	
1.企業債	298.8	191.8	△ 107.0	290.0	△ 98.2	
(1)企業債	298.8	191.8	△ 107.0	290.0	△ 98.2	【前年度比減】建設改良費の減少による減。 ≪予算比減≫R6への財源繰越による減。 (緊急貯水槽68.3百万円繰越)
2.補助金	52.6	2.4	△ 50.2	0.0	2.4	
(1)国補助金	49.9	0.0	△ 49.9	0.0	0.0	≪予算比減≫R6への財源繰越による減。 (緊急貯水槽45.6百万円繰越)
(2)道補助金	2.7	2.4	△ 0.3	0.0	2.4	
3.出資金	78.8	3.5	△ 75.3	19.2	△ 15.7	
(1)出資金	78.8	3.5	△ 75.3	19.2	△ 15.7	【前年度比減】繰入金対象事業の減(耐震化事業の減)。 ≪予算比減≫R6への財源繰越による減。 (緊急貯水槽68.3百万円繰越)
合計	430.2	197.7	△ 232.5	309.2	△ 111.5	

(資本的支出)

(単位：百万円/年(税込))

科目	令和5年度			令和4年度		備考
	予算額a	決算額b	比較増減 (b-a)	決算額c	比較増減 (b-c)	
1.建設改良費	728.0	479.8	△ 248.3	622.8	△ 143.0	
(1)水道施設整備費	596.2	368.8	△ 227.4	479.5	△ 110.7	【前年度比減】建設改良費の減少による減。(耐震化) ≪予算比減≫R6への繰越による減。(緊急貯水槽182.2百万円繰越)その他、事業内容の精査による減。
(2)メーター設置費	129.5	109.0	△ 20.5	105.6	3.3	≪予算比減≫入札差金による減。
(3)固定資産購入費	2.4	2.0	△ 0.4	37.6	△ 35.7	【前年度比減】応急給水車購入費の皆減。
2.企業債償還金	159.7	159.7	△ 0.0	172.6	△ 12.9	
(1)企業債償還金	159.7	159.7	△ 0.0	172.6	△ 12.9	【前年度比減】元金償還ピーク(R3)が過ぎ、減少傾向。
3.予備費	2.0	0.0	△ 2.0	0.0	0.0	
合計	889.7	639.5	△ 250.3	795.4	△ 155.9	

※端数処理により合計値や増減値に相違が生じる場合があります。

6.貸借対照表

(資産の部)

(単位：百万円/年(税抜))

科目	資産の部			備考
	令和5年度 決算 b	令和4年度 決算 a	比較増減 (b-a)	
1.固定資産	8,933.5	8,911.6	21.9	
(1)有形固定資産	8,892.7	8,863.1	29.6	
イ 土地	145.1	145.1	0.0	
ロ 建物	275.5	283.4	△ 7.9	
ハ 構築物	7,823.7	7,773.5	50.1	配水管の整備に伴う構築物の増。
ニ 機械及び装置	155.4	171.3	△ 15.9	減価償却の進展(老朽化)による固定資産現在高の減。
ホ 車両運搬費	21.0	25.5	△ 4.6	
ヘ 工具器具及び備品	19.6	23.7	△ 4.1	
ト メーター	443.7	440.4	3.3	
チ 建設仮勘定	8.7	0.0	8.7	
(2)無形固定資産	40.8	48.5	△ 7.7	
イ 土地利用権	1.9	1.9	0.0	
ロ 未収金	19.0	19.3	△ 0.3	
ハ 電話加入権	0.0	0.0	△ 0.0	
ニ ソフトウェア	19.9	27.3	△ 7.4	
2.流動資産	1,157.6	1,050.2	107.3	
(1)現金預金	1,020.0	929.2	90.8	建設改良費の減少による増。
(2)未収金	128.1	111.6	16.5	水道料金の収納タイミングに伴う増。(4月に跨る収納の増)
(3)貯蔵品	8.4	8.4	0.0	
(4)その他流動資産	1.0	1.0	0.0	
資産合計	10,091.1	9,961.9	129.2	

(負債・資本の部)

(単位：百万円/年(税抜))

科目	資産の部			備考
	令和5年度 決算 b	令和4年度 決算 a	比較増減 (b-a)	
1.固定負債	1,864.4	1,783.6	80.8	
(1)企業債	1,716.5	1,655.7	60.8	企業債現在高の増。(償還額を上回る借入)
(2)修繕引当金	63.9	63.9	0.0	
(3)特別修繕引当金	84.0	64.0	20.0	配水池内面塗装に向けた引当金の積み立て。
2.流動負債	355.4	404.6	△ 49.2	
(1)企業債	131.0	159.7	△ 28.7	R6企業債償還金の減。(減少傾向が続く見込み)
(2)未払金	114.0	117.7	△ 3.7	
(3)未払費用	1.2	1.1	0.1	
(4)前受金	0.1	0.5	△ 0.4	
(5)引当金	8.5	7.9	0.6	
(6)預り金	100.7	117.7	△ 17.0	
3.繰延収益	1,146.7	1,188.6	△ 41.9	
(1)長期前受金	2,737.9	2,731.4	6.6	
イ 受贈財産評価額	1,561.7	1,547.4	14.3	駒場町3丁目ほか民間開発行為に伴う配水管等の受贈。
ロ 補助金	107.6	112.1	△ 4.5	
ハ 工事負担金	1,068.6	1,071.9	△ 3.3	
(2)長期前受金仮勘定	2.4	0.0	2.4	
(3)長期前受金収益化累計額	-1,593.6	-1,542.8	△ 50.8	減価償却の進展に伴う長期前受金の収益化の増。
4.資本金	5,835.2	5,706.3	128.9	
(1)資本金	5,835.2	5,706.3	128.9	減債積立金の支消(4条収支への補填)に伴う資本金への組入。
5.剰余金	889.4	878.8	10.6	
(1)資本剰余金	618.6	618.6	0.0	
イ 受贈財産評価額	21.3	21.3	0.0	
ロ 補助金	161.6	161.6	0.0	
ハ 工事負担金	435.7	435.7	0.0	
(2)利益剰余金	270.8	260.2	10.6	
イ 当年度未処分利益剰余金	270.8	260.2	10.6	当年度純利益の確保。(R3決算比増)
負債・資本合計	10,091.1	9,961.9	129.2	

※端数処理により合計値や増減値に相違が生じる場合があります。

7.キャッシュフロー計算書

(単位：百万円)

区分	令和5年度 決算 b	令和4年度 決算 a	比較増減 (b-a)	備考
1.業務活動	496.1	476.3	19.8	
当年度純利益(△は損失)	136.0	134.8	1.1	
減価償却費	414.1	404.1	10.0	固定資産(未償却)の増。
特別修繕引当金の増加額(△は減少)	20.0	20.0	0.0	
貸倒引当金の増加額(△は減少)	△ 0.0	△ 0.9	0.9	
賞与・法定福利費引当金の増加額(△は減少)	0.6	△ 0.7	1.3	
長期前受金戻入額	△ 60.3	△ 63.0	2.7	
受取利息及び受取配当金	△ 0.3	△ 0.2	△ 0.0	
支払利息	18.7	19.9	△ 1.1	
固定資産除却費	23.3	36.2	△ 12.9	除却資産の減。
未収金の減少額(△は増加)	△ 16.4	11.7	△ 28.1	水道料金の収納タイミングに伴う増。(4月に跨る収納の増)
未払金の増加額(△は減少)	△ 3.7	△ 20.4	16.7	年度を跨ぐ支出(年度未納期事業)の減少。
未払費用の増加額(△は減少)	0.1	△ 0.1	0.2	
たな卸資産の減少額(△は増加)	△ 0.0	△ 0.1	0.1	
預り金の増加額(△は減少)	△ 17.0	△ 46.7	29.6	収納タイミング及び下水道料金収入の増。
その他資産負債の増加額(△は減少)	△ 0.5	1.3	△ 1.8	
小計	514.6	495.9	18.7	
利息及び配当金の受取額	0.3	0.2	0.0	
利息の支払額	△ 18.7	△ 19.9	1.1	
2.投資活動	△ 440.9	△ 573.7	132.8	
固定資産の取得による支出	△ 443.3	△ 573.7	130.5	建設改良費への内部留保資金充当額の減。
道補助金による収入	2.4	0.0	2.4	
3.財務活動	35.6	136.6	△ 101.0	
建設改良企業債による収入	191.8	290.0	△ 98.2	企業債借入額の減。
一般会計からの出資金による収入	3.5	19.2	△ 15.7	出資金対象事業(耐震化)の減。
建設改良企業債の償還による支出	△ 159.7	△ 172.6	12.9	企業債償還金の減。
資金増減額	90.8	39.2	51.6	
資金期首残高	929.2	890.0		
資金期末残高	1,020.0	929.2		

※端数処理により合計値や増減値に相違が生じる場合があります。

令和5年度 下水道事業会計 決算の概要

1.業務の状況

令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症拡大による外出機会の減少による家事用有収水量が増加、社会経済活動の落ち込みにより家事用外有収水量が減少していましたが、令和4年度以降は行動制限の緩和・解除や5類移行(令和5年5月)などにより、家事用外有収水量の回復が見られます。

○公共下水道 有収水量（料金収入が得られた水量）（単位：万m³/年、%）

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度 a	令和5年度 b	増減 b-a	増減率 (b-a)/a*100
家事用	460.8	463.4	484.9	480.9	472.6	471.0	△ 1.6	△ 0.3
家事用外	326.0	307.7	266.8	277.2	297.1	300.2	3.1	1.0
計	786.8	771.1	751.7	758.1	769.7	771.2	1.5	0.2

※新型コロナウイルス感染症の影響：令和元年度末以降

○個別排水処理施設 有収水量（料金収入が得られた水量）（単位：万m³/年、%）

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度 a	令和5年度 b	増減 b-a	増減率 (b-a)/a*100
個別排水処理施設	6.49	7.01	6.64	6.99	6.72	6.67	△ 0.05	△ 0.7
計	6.49	7.01	6.64	6.99	6.72	6.67	△ 0.05	△ 0.7

※新型コロナウイルス感染症の影響：令和元年度末以降

2.一般会計繰入金の状況

下水道事業の一般会計繰入金総額は、前年度比で微減(ほぼ横ばい)となりました。

項目別では、処理場費修繕費の増により、汚水処理に係る繰入が大部分を占める営業外収益(他会計負担金及び他会計補助金の合計)が増加したものの資本的収入(他会計出資金)である特別措置分*1元金償還金分の繰入金が企業債残高の減(償還終了の増)により減少しました。

○一般会計繰入金（単位：百万円/年(税込)）

区分			令和4年度 a	令和5年度 b	増減 b-a	増減理由
公共 下水道	営業収益	雨水処理負担金	517.1	514.0	△ 3.1	雨水分資本費の減。
	営業外収益	他会計負担金	46.7	85.9	39.2	分流式下水道等に要する経費の増。 (処理場修繕費等の増)
		他会計補助金	47.7	22.4	△ 25.3	資本費に係る交付税措置相当額を最低補償するための補填額の減。 (分流式下水道等に要する経費の増による)
	資本的収入	他会計出資金	104.7	90.5	△ 14.2	特別措置分元金償還金の減。
小計			716.3	712.8	△ 3.5	
個別排水 処理施設	営業外収益	他会計負担金	28.8	30.8	2.0	
	資本的収入	他会計出資金	4.2	4.5	0.3	
小計			33.0	35.3	2.3	
合計			749.3	748.1	△ 1.2	

※1 令和18年度の財政措置(交付税措置)の変更に伴い、それ以前の既発債の財源措置を“特別措置分”の起債発行により、その元利償還金を財政措置することにより、補償するもの。

※端数処理により合計値や増減値に相違が生じる場合があります。

3.建設投資の状況

汚泥乾燥施設を建設中の平成30年度～令和2年度から比べると建設改良費が減少し、推移しています。

令和5年度は、令和4年度に実施した島松寿町(旧西島松)地区の開発行為に伴う雨水管整備の皆減(単年事業の完了)等により、減少しました。

○建設改良費

(単位：百万円/年(税込))

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度 a	令和5年度 b	比較増減 b-a
公共下水道	972.1	1,144.2	1,482.6	772.4	963.8	772.4	△ 191.4
個別排水処理施設	18.1	9.0	6.4	13.0	4.1	1.7	△ 2.4
計	990.2	1,153.2	1,489.0	785.4	967.9	774.1	△ 193.8

○主な建設投資(工事請負費 及び 日本下水道事業団 (JS)への建設工事委託費)

(単位：百万円/年(税込))

区分		内容	令和4年度 a	令和5年度 b	比較増減 b-a
管渠	分流化	・福住町、新町、京町、栄恵町 新設 汚水管 φ200、L=2,298m	372.0	366.5	△ 5.5
	老朽化対策 (スマネ計画)	・重要な幹線等；島松地区(JR横断部) 管更生 汚水管 φ600、L=32m C=7.4百万円	2.9	16.3	13.4
		・牧場マンホールポンプ所 電気設備更新 C=9.0百万円			
	耐震化	・重要な幹線等；恵み野地区 可とう継手設置38箇所、人孔更生3箇所	0.0	53.7	53.7
	雨水整備※1	・戸磯跨線橋架替関連ほか 新設 雨水管 φ250、L=192m	158.9	17.0	△ 141.9
	汚水整備	・戸磯跨線橋架替関連、柏陽北地区ほか 新設 汚水管 φ200、L=181m	6.6	31.0	24.4
	その他※2	・公共汚水柵更新、人孔蓋更新	17.6	1.3	△ 16.3
小 計			558.1	485.8	△ 72.3
処理場	老朽化対策 (スマネ計画)	・除塵機ほか更新(JS) C=192.0百万円 ・計装機器ほか更新(JS) C=30.5百万円	206.4	222.5	16.1
	その他	・2系沈砂池棟直流電源装置更新ほか	14.7	12.1	△ 2.6
	耐震化		37.2	0.0	△ 37.2
小 計			258.3	234.6	△ 23.7
個別排水処理 施設整備	・5人槽 1基 (令和4年度 5人槽 1基、7人槽 1基)		4.1	1.7	△ 2.4
計			820.5	722.0	△ 98.5

※1：R4に実施した島松寿町(旧西島松)地区の開発行為に伴う雨水管整備の皆減(単年事業の完了)による。

※2：維持管理と併せて行う人孔蓋布設替 及び 公共柵布設替を行うものについて委託料(維持管理委託)として支出した。

○令和6年度への繰越事業

(単位：千円/年(税込))

事業名	事業費	財源		
		国庫補助金	企業債	内部留保資金
処理場整備事業(除塵機等更新)(R4協定)	19,000	9,500	9,500	0
処理場整備事業(計装機器等更新)(R5協定))	36,000	19,800	16,200	0
合計	55,000	29,300	25,700	0

※端数処理により合計値や増減値に相違が生じる場合があります。

4. 予算決算比較表

(収益的収入)

(単位：百万円/年(税込))

科目	令和5年度			令和4年度		備考
	予算額a	決算額b	比較増減 (b-a)	決算額c	比較増減 (b-c)	
1. 営業収益	1,721.5	1,709.8	△ 11.7	1,719.1	△ 9.3	
(1) 下水道使用料	1,122.0	1,120.8	△ 1.2	1,114.2	6.6	【前年度比増】家事用外有収水量の増加による。(コロナ渦が過ぎ経済活動が回復と思われる)
(2) 雨水処理負担金	520.9	514.0	△ 6.9	517.1	△ 3.1	
(3) 受託事業収益	78.0	74.5	△ 3.4	71.9	2.7	
(4) その他営業収益	0.6	0.5	△ 0.1	16.0	△ 15.5	【前年度比減】戸機跨線橋架替に伴う移設補償の皆減による。
2. 営業外収益	1,129.8	1,082.0	△ 47.8	1,057.2	24.8	
(1) 受取利息及び配当金	0.4	0.6	0.2	0.4	0.1	
(2) 補助金	45.8	38.1	△ 7.7	22.3	15.8	【前年度比増】3条政策的事業(処理場ストマネ点検調査計画策定、放流ポンプ棟及び4,5系初沈耐震診断)の皆増による。
(3) 他会計補助金	23.3	22.4	△ 0.8	47.7	△ 25.3	【前年度比増】汚水維持管理費(処理場費)の増に伴う他会計繰入金の増による基準外繰入金(資本費に係る交付税措置相当額を最低補償するための補填額)の減
(4) 他会計負担金	150.9	116.7	△ 34.2	75.6	41.1	【前年度比増】汚水維持管理費(処理場費)の増。 ≪予算比減≫汚水維持管理費(処理場費)の執行残。
(5) 長期前受金戻入	826.6	825.5	△ 1.2	829.7	△ 4.2	
(6) 雑収益	82.8	78.8	△ 4.1	81.5	△ 2.7	
3. 特別利益	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
合計	2,851.3	2,791.8	△ 59.5	2,776.3	15.5	

(収益的支出)

(単位：百万円/年(税込))

科目	令和5年度			令和4年度		備考
	予算額a	決算額b	比較増減 (b-a)	決算額c	比較増減 (b-c)	
1. 営業費用	2,532.7	2,461.5	△ 71.1	2,392.8	68.7	
(1) 管渠費	134.4	126.6	△ 7.7	126.3	0.3	
(2) 処理場費	594.0	546.5	△ 47.5	483.7	62.7	【前年度比増】処理場政策事業(処理場ストマネ点検調査計画策定、放流ポンプ棟及び4,5系初沈耐震診断)の増。処理場修繕費の増(バイオ汚泥混合槽・貯留槽攪拌機の繰越執行)。 ≪予算対減≫処理場動力費、処理場包括委託、汚泥処理費、突発修繕の執行残。
(3) 個別排水処理費	32.3	28.7	△ 3.5	26.6	2.1	
(4) 水質規制費	4.1	3.0	△ 1.2	2.8	0.2	
(5) 水酸化促進費	8.2	8.1	△ 0.1	7.6	0.4	
(6) 生ごみ・し尿処理場維持管理受託費	74.3	71.0	△ 3.3	68.4	2.6	
(7) 業務費	57.1	54.0	△ 3.1	54.2	△ 0.2	
(8) 総係費	70.6	67.5	△ 3.1	64.4	3.1	
(9) 減価償却費	1,556.0	1,553.8	△ 2.2	1,550.9	2.9	
(10) 資産減耗費	1.7	2.3	0.6	7.7	△ 5.4	
2. 営業外費用	210.1	191.9	△ 18.2	189.9	2.1	
(1) 支払い利息及び企業債取戻諸費	132.7	130.8	△ 2.0	135.4	△ 4.6	
(2) 消費税及び地方消費税	28.0	14.6	△ 13.5	7.3	7.3	≪予算比減≫執行残(仮払消費税の増)
(3) 長期前払消費税等償却	12.2	12.0	△ 0.2	10.6	1.4	
(3) 雑支出	37.1	34.6	△ 2.5	36.5	△ 1.9	
3. 特別損失	1.0	0.5	△ 0.5	0.4	0.2	
4. 予備費	2.0	0.0	△ 2.0	0.0	0.0	
合計	2,745.8	2,654.0	△ 91.8	2,583.0	71.0	

※端数処理により合計値や増減値に相違が生じる場合があります。

(資本的収入)

(単位：百万円/年(税込))

科目	令和5年度			令和4年度		備考
	予算額a	決算額b	比較増減 (b-a)	決算額c	比較増減 (b-c)	
1.企業債	750.0	536.8	△ 213.2	662.1	△ 125.3	【前年度比減】建設改良費の減少による減。 ≪予算比減≫先送り等に伴う建設改良費の減。
2.補助金	356.7	248.4	△ 108.3	308.6	△ 60.1	【前年度比減】≪予算比減≫ 社交金配分率の減(R5：70.1%、R4：81.0%)
3.他会計出資金	96.0	95.0	△ 0.9	108.9	△ 13.9	【前年度比減】特別措置分元金償還金の減
4.負担金	3.2	0.3	△ 2.9	0.0	0.3	
5.分担金	2.2	0.2	△ 2.1	0.5	△ 0.4	
6.水洗化貸付事業収入	0.3	0.0	△ 0.3	0.0	0.0	
合計	1,208.3	880.7	△ 327.6	1,080.1	△ 199.3	

(資本的支出)

(単位：百万円/年(税込))

科目	令和5年度			令和4年度		備考
	予算額a	決算額b	比較増減 (b-a)	決算額c	比較増減 (b-c)	
1.建設改良費	1,146.4	776.4	△ 370.0	968.0	△ 191.6	
(1)公共下水道整備費	1,121.7	772.4	△ 349.3	963.8	△ 191.4	【前年度比減】雨水整備の減(西島松地区皆減(単 年事業の完了))。 ≪予算比減≫社交金配分状況に伴う戸磯地区雨水 整備工事、樋門ゲート改造工事の先送りによる工 事請負費の減。
(2)個別排水処理施設整備費	22.3	1.7	△ 20.7	4.1	△ 2.5	
(3)固定資産購入費	2.4	2.3	△ 0.0	0.0	2.3	
2.企業債償還金	887.5	887.5	△ 0.0	931.8	△ 44.3	
(1)企業債償還金	887.5	887.5	△ 0.0	931.8	△ 44.3	【前年度比減】元金償還のボトム。直近のピーク はR8(見込)。
3.水洗化貸付事業費	0.3	0.0	△ 0.3	0.0	0.0	
4.予備費	2.0	0.0	△ 2.0	0.0	0.0	
合計	2,036.2	1,663.9	△ 372.3	1,899.8	△ 235.9	

※端数処理により合計値や増減値に相違が生じる場合があります。

6.貸借対照表

(資産の部)

(単位：百万円/年(税抜))

科目	資産の部			備考
	令和5年度 決算 b	令和4年度 決算 a	比較増減 (b-a)	
1.固定資産	29,898	30,711	△ 813	
(1)有形固定資産	29,607	30,427	△ 819	
イ 土地	521	520	1	
ロ 建物	967	1,013	△ 47	減価償却の進展(老朽化)による固定資産現在高の減。
ハ 構築物	23,194	23,759	△ 565	減価償却の進展(老朽化)による固定資産現在高の減。
ニ 機械及び装置	4,659	5,090	△ 431	減価償却の進展(老朽化)による固定資産現在高の減。
ホ 車両運搬費	0	0	0	
ヘ 工具器具及び備品	6	6	1	
ト 建設仮勘定	260	38	222	複数年工事(処理場設備改築更新工事)の実施。
(2)無形固定資産	92	96	△ 4	
イ 土地利用権	5	5	0	
ロ 施設利用権	83	85	△ 2	
ハ 電話加入権	0	0	0	
ニ ソフトウェア	5	6	△ 2	
(3)投資その他の資産	198	188	10	
2.流動資産	2,295	2,113	182	
(1)現金預金	2,141	1,915	226	
(2)未収金	154	198	△ 44	
資産合計	32,193	32,824	△ 631	

(負債・資本の部)

(単位：百万円/年(税抜))

科目	負債の部			備考
	令和5年度 決算 b	令和4年度 決算 a	比較増減 (b-a)	
1.固定負債	11,684	12,038	△ 354	
(1)企業債	11,684	12,038	△ 354	企業債現在高の減少(償還額以内の借入)。
2.流動負債	1,172	1,083	89	
(1)企業債	891	887	4	
(2)未払金	244	155	89	年度を跨ぐ支出(企業債償還金など)の増加。
(3)未払費用	7	1	6	
(4)引当金	7	7	△ 0	
(5)預り金	22	32	△ 10	
3.繰延収益	14,266	14,818	△ 552	
(1)長期前受金	23,403	23,234	169	
イ 受贈財産評価額	5,750	5,726	24	駒場町3丁目ほか民間開発行為に伴う管路施設等の受贈。
ロ 補助金	15,558	15,413	145	補助金を活用した建設改良工事の実施。
ハ 負担金・分担金	2,095	2,096	△ 0	
(2)長期前受金仮勘定	119	18	102	補助金を活用した複数年工事(処理場設備改築更新工事)の実施。
(3)長期前受金収益化累計額	△ 9,257	△ 8,434	△ 823	
4.資本金	4,620	4,307	313	
(1)資本金	4,620	4,307	313	減債積立金の支消(4条収支への補填)に伴う資本金への組入。
5.剰余金	452	578	△ 126	
(1)資本剰余金	225	225	0	
イ 受贈財産評価額	143	143	0	
ロ 補助金	37	37	0	
ハ 一般会計繰入金	43	43	0	
ニ 保険差益	2	2	0	
(2)利益剰余金	227	353	△ 126	
イ 当年度未処分利益剰余金	227	353	△ 126	当年度純利益の減。(R3決算比減)
負債・資本合計	32,193	32,824	△ 631	

※端数処理により合計値や増減値に相違が生じる場合があります。

7.キャッシュフロー計算書

(単位：百万円)

区分	令和5年度 決算 b	令和4年度 決算 a	比較増減 (b-a)	備考
1.業務活動	941.2	905.7	35.5	
当年度純利益(△は損失)	92.0	135.5	△ 43.5	処理場費(修繕費等)の増による純利益の減。
減価償却費	1,553.8	1,550.9	2.9	
貸倒引当金の増加額(△は減少)	△ 0.5	△ 0.7	0.2	
賞与・法定福利費引当金の増加額(△は減少)	△ 0.2	0.8	△ 1.0	
長期前受金戻入額	△ 825.5	△ 829.7	4.2	
受取利息及び受取配当金	△ 0.6	△ 0.4	△ 0.1	
支払利息	130.8	135.4	△ 4.6	
固定資産除却費	2.0	7.2	△ 5.2	
未収金の減少額(△は増加)	43.7	20.5	23.1	未収金の減少(一般会計負担金等)。
未払金の増加額(△は減少)	88.7	△ 12.6	101.3	年度を跨ぐ支出(企業債償還金など)の増加。
未払費用の増加額(△は減少)	6.3	△ 0.1	6.4	
長期前払消費税等の減少額(△は増加)	△ 9.8	△ 16.6	6.8	
その他資産負債の増加額(△は減少)	△ 9.3	50.5	△ 59.8	翌年度へ繰越した前払金の皆減(R3年度比)。
小計	1,071.4	1,040.7	30.7	
利息及び配当金の受取額	0.6	0.4	0.1	
利息の支払額	△ 130.8	△ 135.4	4.6	
2.投資活動	△ 459.9	△ 573.8	114.0	
固定資産の取得による支出	△ 708.8	△ 882.9	174.1	建設改良費への内部留保資金充当額の減。
国庫補助金による収入	248.4	308.6	△ 60.1	建設改良費へ国庫補助金充当額の減。
国庫補助金の返還による支出	0.0	0.0	0.0	
受益者負担金・分担金による収入	0.5	0.5	△ 0.1	
3.財務活動	△ 255.6	△ 160.8	△ 94.8	
建設改良企業債による収入	536.8	662.1	△ 125.3	企業債借入額の減。
一般会計からの出資金による収入	95.0	108.9	△ 13.9	企業債償還金(特別措置分)の減。
建設改良企業債の償還による支出	△ 887.5	△ 931.8	44.3	企業債償還金の減。
資金増減額	225.7	171.0	54.7	
資金期首残高	1,915.2	1,744.2		
資金期末残高	2,140.9	1,915.2		

※端数処理により合計値や増減値に相違が生じる場合があります。